

# 平成22年度施策評価表

(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 4 月 16 日

施策No.	19	施策名	バリアフリー社会の推進
主管課名	社会福祉課	主管課長名	四十万 隆一
関係課名	商工観光課、建設課、都市計画課		

施策の目的 【対象】	①市民 ②高齢者・障害者	対象指標名	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	目標年度 (年度)
		①市の人口	人	46,459	46,036	45,562	45,121		
		②-1.高齢者人口	人	11,576	11,795	12,035	12,228		
		②-2.障害者人口(0~64歳)	人	940	963	961			

施策の目的 【意図】	(対象①) ①障害者や高齢者などの弱者に対する偏見がなくお互いに助け合う思いやりの心を持っている。 ②誰もが自由に安心して出歩くことができる。 ③家庭内で不自由なく暮らせる。	成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度目標	目標値
		①-1.障害者などに何らかの手助けをしたいと思っている市民の割合	%	54.1	55.6	55.4	70.0	57.0	60.0
		②-1.歩道の再整備(段差解消)率	%	5.8	5.8	調査中	3.4		
		②-2.公園トイレのバリアフリー化率	%	59.3	59.3	59.3	70.3		
		③住宅のバリアフリー化助成件数	件	124	157	154			

成果指標設定の考え方	①市民に、障害者などに何らかの手助けをしたいと思っているかを聞くことにより、どれだけ市民が、偏見がなく、お互いに助け合う思いやりの心をもっているかがわかるので、これを成果指標とした。 ②-1、②-2及び③歩道や公園、住宅のバリアフリー化がどの程度進んでいるかを見ることで、だれもが自由に安心して在宅生活を続けたり出歩いたりすることができるかがわかるので、これを成果指標とした。
------------	---

成果指標の把握方法(算定式等)	①企画政策課の市民意識調査により把握。 ②-1及び2.建設課の資料(工事台帳)及び都市計画課の資料(都市計画課公園台帳)により把握。 歩道の再整備率=段差解消延長÷段差延長×100 公園トイレのバリアフリー化率=トイレのバリアフリー化済の公園数÷都市公園数×100 ③社会福祉課の資料により把握。 住宅のバリアフリー化件数=高齢福祉の住宅改修助成件数+介護保険による住宅改修件数+障害福祉の住宅改修助成件数
-----------------	--

施策の成果向上に向けての役割分担	市民	・障害者、高齢者に対する理解を深める。 ・お互いに助け合う思いやりの心を持って、手助け等積極的に協力する。
	市	・心のバリアフリーを進めるため、青少年を含め市民に対してボランティア参加などの啓発活動に努める。 ・バリアフリー社会推進の啓発を行う。 ・公共施設のバリアフリー化の計画的な実施と維持管理を進める。 ・高齢者や障害者が在宅生活を続けられるように、ケアマネジャーや事業者と連携して風呂やトイレなどの住宅改修を支援する。

施策No.	19	施策名	バリアフリー社会の推進
	その他		
平成21年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること。)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述。)		
	財政状況や景気の動向もあり、施設面でのバリアフリー化は進捗していない。ただ、市民のバリアフリーに対する意識は年々高まっていると思われる。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述。)		
	◆詳細はデータ不足のため不明(県等に照会し、実態把握に努めたい。)であるが、歩道のバリアフリー化率や公園トイレのバリアフリー化率は、近隣と比較して、魚津市の整備率が若干高くなっていると思われる。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述。)		
	障害者は微増であるが、高齢者は激増しており、道路や公共施設のバリアフリー化は益々重要になっている。一方、財政状況から施設面でのバリアフリー化は遅滞しており、市民の期待水準を下回っていると思われる。		
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述。)		
	【意識啓発】 ボランティア連絡協議会の育成。 【歩道のバリアフリー化】 バリアフリー計画に基づき整備中 【公園のバリアフリー化】 該当なし 【住宅のバリアフリー化】 高齢者の住宅改修(実績148件)及び障害者の住宅改修(実績9件)		
	3. 施策の課題認識及び平成22年度の取り組み状況(予定) (平成21年度末で残った課題、既に平成22年度に取り組んでいること、又は取り組みの予定について記述。)		
【意識啓発】 魚津市には各種ボランティア団体が多数あるが、現在のボランティア連絡協議会に加入している 団体・個人はごく一部であり、ボランティアのネットワークの強化と市民に見える形の活動が課題である。そのため、社会福祉協議会と連携しながら活動方法等について検討していく。			
【施設整備】 障害者や高齢者の利用の多い同い道路や公共施設のバリアフリー化について再検討する。			

施策の トータル コスト	区 分	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度計画	24年度計画
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	4	5	5			
B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	18,626	29,372	18,739				
C. 事務事業に要する年間総時間	時間	780	1,520	1,240				
D. 人件費 (C×1時間あたりの平均人件費)	千円	3,206	6,392	5,214				
E. トータルコスト (B+D)	千円	21,832	35,764	23,953	0	0	0	
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の							
	F. 事業費 (定義式 : B/人口)	円	399	638	411			
	同上 G. 人件費 (定義式 : D/人口)	円	69	139	114			
	同上 H. トータルコスト (定義式 : E/人口)	円	467	777	526			